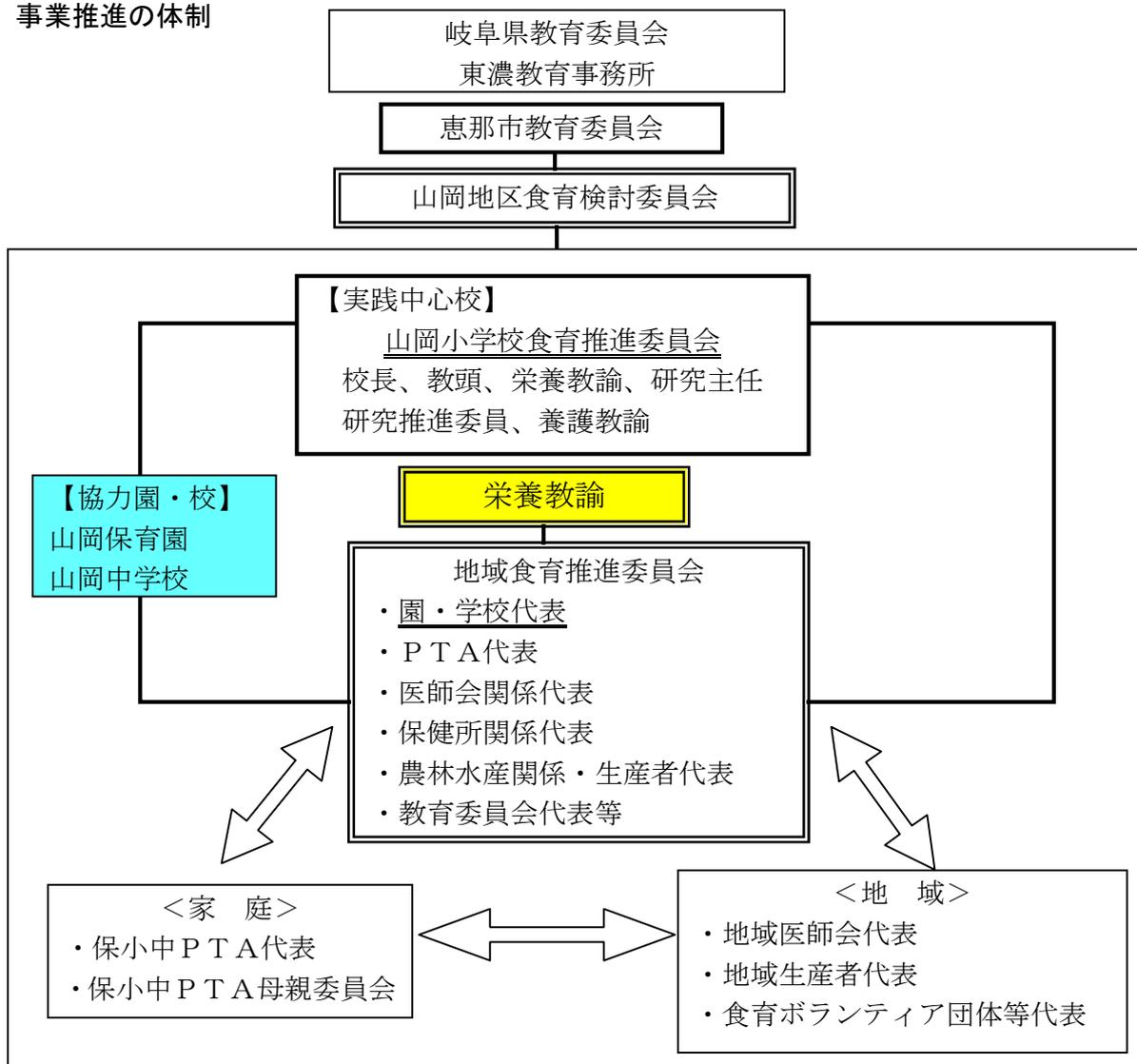


再委託先名	恵那市
-------	-----

1. 事業推進の体制



2. 事業内容（実績）

テーマ2	食の楽しさや大切さについて自ら学び、よりよい食生活を実践する子の育成
<p>1 教科等における食に関する指導や体験活動の充実</p> <p>(1) 食に関する指導の全体計画及び年間計画を作成し、系統的・意図的な指導の展開 (保育園から中学校までの連携した指導計画)</p> <p>山岡地域は、保育園から小学校、中学校へとそのまま進学する地域である。その特徴を生かして、保育園から中学校における食に関する指導の系統性を図った。</p>	

24年度 食に関する指導 年間計画（保・小・中・中のつながり）												恵那市山岡地域検討委員会																					
月	4			5			6			7			8・9			10			11			12			1			2			3		
めざす姿	食の楽しさや大切さについて自ら学び、よりよい食生活を実践する子の育成																																
指導目標	「食」を通じた生活リズムをつくらう			食事のマナーを知ろう			食の楽しさや大切さを知り、栽培活動や調理を楽しもう			収穫の喜びや感謝の気持ちをもとう			夏の食べ物を知り、栽培活動や収穫調理を楽しもう			食品の栄養や働きについて知ろう			秋の食べ物を知り、収穫・調理を楽しもう			行事食や郷土食について知ろう			冬の食べ物を知り、調理を楽しもう								
保育園	給食の大切さを知り、給食時のまよきを守ろう			バランスのよい食事をしよう			衛生面に気をつけて食事をしよう			暮らさなければならない食事をしよう			「食」を通じた生活リズムを見直そう			好き嫌いなく何でも食べよう			よくかんで食べよう			寒さに負けない食事をしよう			行事食や郷土食を通して食文化を知ろう			食事のマナーを知り、楽しく食べよう			食生活を反省しよう（マナー・挨拶・歯食）		
小学校	給食の約束を知り、衛生的に準備をしよう			栄養バランスを考えながら食べよう			衛生面に気をつけて、身支度や手洗いをしよう			健康にいい食事の取り方を身につけよう①			「食」を通じた生活リズムを改善しよう			健康にいい食事の取り方を身につけよう②			かむことの大切さを知り食生活に取り入れよう			健康にいい食事の取り方を身につけよう③			行事食や郷土食のよさを考え進んで食べよう			話題や話の仕方を工夫して楽しい食事にならそう			給食時間の反省を今後の食生活に生かそう		
中学校	給食当番への衛生指導（年間を通して） 給食当番健康チェックの実施（年間を通して） 配膳台・ワゴンの清掃や消毒（年間を通して）																																
給食管理	各種調査																																
指導内容	個別指導・個食指導（年間）																																
給食時間等	保育園 給食の楽しみを確認し、正しい食事の取り方を教える。																																
保育	年少・5歳児制作 年中・まよき制作 児童活動 夏野菜の種まき、苗植え																																
学級活動・教科	1 給食について知ろう 2 わやつの取り方について 3 野菜のひみつを見つけよう 4 朝食の大切さを知ろう 5 食べ物と地域地産 6 自分の食生活について考えよう																																

【学校における指導や取組実践】

① 第6学年：家庭科「くふうしよう 朝の生活」

<授業づくりの視点>

児童の思考に広がりをもたせるための栄養教諭の活用を重点

<ねらい>

自分自身が考えた朝食メニューが、栄養のバランス的にどうなのかということをも食品分類表から調べ、改善する活動を通して、今後の朝食メニューについて見直そうとする気持ちをもつ。

<意識の変容>

「朝食バイキング」と題して、様々な朝食内容が描かれた絵の中から最初は自分の好みだけで絵を選んでいった児童が、自分の選んだメニューについて、栄養のバランスはどうなのかということをも食品分類表から調べたり、栄養教諭からの話を聞いたりすることで、「自分の好き嫌いだけでメニューを決めてはいけない。」ということに気付き、明日からの朝食メニューについて見直す方法を学ぶことができた。

<他教科との関連>

学級活動「朝食を摂ることの大切さ」 給食の時間「食事の重要性」（栄養教諭）

② やまばと・ひまわり学級：生活科・生活単元「ジャガイモのことを知り、食べ方を考えよう」

<授業づくりの視点>

追究意欲や生活実践につなげるための活動的・能動的な学習を重点とした。

<ねらい>

ジャガイモの栄養価の高さや様々な調理法があることがわかる。

<意識の変容>

ジャガイモが身近な食材であることに気づき、ジャガイモを使って料理したいという意識や自分の食生活に取り入れようとする意欲が高まった。ジャガイモの手触りやにおいなど五感を使うことで、ジャガイモがより身近な食材であることに気づかせ、このジャガイモを使



って料理したいという意欲的な追究や自分の食生活に取り入れようとする生活実践につながった。

③ 第1学年：学級活動「きゅうしょくのひみつをみつけげんきになろう」
＜授業づくりの視点＞

本時学んだことを自分の生活にいかすための学習を重点とした。

＜ねらい＞

給食が栄養のバランスを考えて作られていることに気付き、健康のために何でも食べようとする気持ちをもつことができる。

＜意識の変容＞

給食に含まれる栄養素を見つけながら、給食を残さず食べる

ことの大切さを学び、一人一人の「給食の約束」を考えることができた。

給食を残さず食べることの大切さを学んだ後、一人一人が「給食の約束」を考え、今後の生活にいかすための出口を明確にした実践となった。

④ 2年生：生活科「ピーマンのひみつ」

＜授業づくりの視点＞

児童の学びを支える教材・教具の工夫を重点とした。

＜ねらい＞

ピーマンのよさや栄養価の高さに気付き、好き嫌いしないでバランスよく食べようとする意識をもつことができる。

＜意識の変容＞

ピーマン嫌いな児童も、ピーマンの栄養効果を学び、好き嫌いなく食べることができた。

◇ピーマン嫌いな児童にも親しみをもちやすい紙芝居を提示した。紙芝居から、ピーマンの栄養効果を学ぶなど児童が興味関心をもちながら意欲的に学習ができる教材・教具の工夫をした。

⑤ 第3学年：学級活動「手洗い名人になろう」

＜ねらい＞

自分の手洗いがどれぐらいの汚れを落とすことができるかということを手洗いチェッカーを使い、その場で汚れの落ち具合を確認する活動を通して、望ましい手洗いの仕方を身に付ける。

＜意識の変容＞

最初は、「自分の手洗いには自信がある。」と言っていた児童も手洗いチェッカーで汚れを確認すると、すぐに手洗い場へ行き、再度手洗いをする姿が数多く見られた。授業後、「今までの手の洗い方では、汚れは落ちない。」という気持ちになり、毎日の手洗いの仕方が変わっていった。また、養護教諭の指導により手洗いの必要性を再認識させることができた。実際に手洗いをする際には、簡単な音楽に合わせて一つ一つ確かめながら実践する姿が見られた。

＜他教科との関連＞

体育における保健学習「健康な生活」では手洗いチェッカーによる学習を生かし、生活のめあてを考えることができた。

⑥ 4年生：学級活動「かむことのよさをみつけよう」

＜授業づくりの視＞

生活実践につながる課題設定を重点とした。



<ねらい>

噛むことは、消化を助けるだけでなく、歯や脳、体全体によいことを知り、自分の食べ方について考えることができる。

<意識の変容>

噛むことには、様々なよさがあることに気づき、自分の食べ方を見直そうとする意識が高まった。事前に、噛むことに対する意識や好きな料理などのアンケートをとるなど、児童の実態をつかんだ課題設定とした。児童にとって必然性のある課題づくりとなった。



⑦ 5年生：学級活動「おやつとり方を考えよう」

<授業づくりの視点>

児童の思考に広がりをもたせるための栄養教諭の活用を重点とした。

<ねらい>

自分のおやつを食べ方を振り返り、油を摂り過ぎないおやつを食べ方を考えることができる。

<意識の変容>

おやつに含まれる油の多さを知り、おやつ摂り方を見直すことができた。栄養教諭は、血液の流れを模型で提示し、油を摂り過ぎた血管の様子や、生活習慣病について説明をした。栄養教諭の活用により、今まで知らなかった体の秘密を知り、おやつとり方を再度考えようとする生活に結びつく実践となった。

⑧ 6年生：学級活動「しっかりとろうカルシウム」

<授業づくりの視点>

児童の思考に広がりをもたせるための栄養教諭の活用を重点

<ねらい>

自分に合ったカルシウムの摂り方を考えることができる。

<意識の変容>

カルシウムが豊富に含まれる食品を知り、自分の生活にいかすための食事の仕方を考えることができた。給食に含まれるカルシウム量やカルシウムをとるためにどんな食品をどの位摂取するとよいのかなど、栄養教諭の説明を聞き、生活でいかせることを考えることができた。児童の考えたカルシウムメニューは、全校給食のメニューとなった。



⑨ 給食の時間

給食は、『生きた教材』である。毎日の給食は、各教科で学んだ食育の知識や授業で高めた意欲を実践する大切な場である。給食の時間は、担任だけではなく、栄養教諭も各教室を訪問し、直接、児童に声をかけたり、マナーなどの給食指導を定期的に行ったりしてきた。

さらに、毎月19日を『ふるさとの日』とし、給食メニューに、地元の食材や郷土料理を取り入れている。地元の方が、どんな野菜を、どのように作っているのかなどを、現物や掲示で紹介し、地元の食材のよさを知る場を設けた。



⑩食育研修会の実施

<ねらい>

- ・教職員が「食育」の大切さを共有する場を設定し、小中学校の時期における指導内容を確認する。
- ・栄養教諭を中核とした食育推進の在り方として、給食時間における指導の充実、栄養教諭と担任がチームを組む指導の必要性を学ぶ。

<日時>平成24年7月26日(木) 10:30~

<対象>山岡小学校、山岡中学校の教職員

<講師>食育専門員 栗山 愛子先生(岐阜県学校給食会)

<内容>食に関する指導の重要性、給食時間を利用した指導の効果、家庭との連携を図った食育等

(2) 食と関連する指導及び食と関連した体験活動や栽培活動を計画的・意図的に実施

食に関する年間指導計画に、「食と関連した体験活動や栽培活動」を位置付けた。

学年	教科等	体験活動・栽培活動	ねらい
第1学年	生活科	さつまいもづくり	・さつまいもの栽培活動を通して、野菜がどのように成長し、どのように収穫するかを知る。
		鮎の食べ方	・鮎の食べ方を学ぶことで、魚に対する興味・関心をもつ。
第2学年	生活科	ミニトマトづくり	・ミニトマトの成長を観察することを通して、野菜に関する興味・関心を高める。
		まちたんけん	・自分たちが住んでいる地域を探検し、どんな野菜がつくられているかを知る。
第3学年	総合的な学習の時間	大豆を育てよう	・姿を変える大豆のよさを調べることで、野菜の魅力を知る。
第4学年	総合的な学習の時間	山岡のくらし	・地元産業である「寒天」を活用した食品加工について学び、食農への関心を高める。
第5学年	総合的な学習の時間	ほうれんそうの栽培	・ほうれんそうの栽培活動を通して、身近な野菜を摂ることの大切さを知る。(地場産物の活用)
	家庭科	調理実習	・自分たちで作った野菜を調理し、食することで野菜に対する愛着をもつ。
第6学年	総合的な学習の時間	しいたけ栽培	・身近で多く作られているしいたけ栽培を実践したり、生産者から学んだりしたことを通して、自然と共に生活することの大切さを知る。
特別支援	生活科	春見つけ	・近くで摘んだ蓬(よもぎ)を使って蓬団子を作り身近にあるものを使っておいしいものができたということを実感することができる。

【具体的な実践】

- ・第1学年の生活科では「さつまいもづくり」、第2学年の生活科は「ミニトマトづくり」、第3学年の総合的な学習の時間では、「大豆を育てよう」、第6学年の総合的な学習の時間では「しいたけ栽培」を行い、野菜等の栽培活動や体験活動を行った。また、第4学年は地元産業である「寒天」を活用して、食品加工について学び、食農への関心を高めた。
- ・特別支援学級の生活科では「春見つけ」に行き、近くで摘んだ蓬(よもぎ)を使って蓬団子を作り、身近にあるものを使っておいしいものができたということを実感することができた。
- ・第5学年の総合的な学習の時間では、栽培したほうれん草を家庭科の調理実習で使用し、自分たちが栽培したものを味わうことで食材に対して、喜びをもって食することができた。

2 正しく、豊かな食生活にするための家庭の啓発活動充実

(1) 講演会や給食試食会など、親学びの機会の設定

食については、学校や保育園だけで指導できるものではない。課題を克服するためには、家庭の理解や協力は欠かせない。そこで、地域食育推進委員会では保護者が学ぶ機会を設定した。

①食育講演会の実施

- ・日時：平成24年7月5日（木）
- ・場所：山岡小学校多目的広場
- ・対象：保育園、小学校、中学校の保護者
- ・目的：「子どもを変える食卓」をテーマに、正しい食生活の在り方について意識改善を図る
- ・講師：山澤 和子先生（東海学院大学食品健康課教授）

毎日の排便と食事の内容が関係ないと思っていたけど、とても大切だということが分かり、これからの食事では繊維質の野菜を多く摂るように心がけたいという保護者の声

②栄養教諭による給食試食会と意見交流会の実施

- ・日時：平成24年6月25日（月）
- ・場所：山岡小学校家庭科室
- ・対象：山岡小学校、山岡中学校の保護者
- ・内容：給食試食、給食参観
- ・給食メニューの工夫や簡単レシピの紹介
- ・学校給食の秘密 ・食事の改善の方法



(2) 望ましい食生活を支援するための情報発信

学級通信や学校だよりで、学校での食育授業について家庭へ発信したり、食育について課題を提示したりすることで、各家庭の食生活が正しく、豊かになることを目指した。また、講演会などの親の学びの機会と同時に、食についての話題や問題を提起したり、知識を提供したりするなどの情報発信も家庭の理解を得る上では大切である。そこで、地域食育推進委員会では、食育だよりやリーフレットの配付を行った。



①学級通信にて、授業の様子を家庭に発信

授業の様子を家庭へも知らせ、さらにその後の家庭での子ども達の食事の様子を聞き取り調査しながら、学校と家庭両者で、豊かな食生活や食習慣を身につけさせたいと考えた。児童の食事への興味関心が高まっていることをさらに通信で出すなど、家庭とのつながりを大事にしてきた。

②授業参観日では親と一緒に学習

夏休み前の参観日を利用し、夏休みのおやつづくり方を考えた。ジュースやお菓子に含まれる糖分量を示しながら、どんな飲み物、どんな食べ物がよいのかなどを親子で学習した。正しく豊かな食生活となるように、保護者の方と共に学ぶ場を設定した。



③「おにぎりの日」実施

P T Aの母親委員会主催で、全校「おにぎりの日」を実施した。おにぎりを通して子どもだけではなく、保護者も食の楽しさや大切さについて考える場とした。「家の人と一緒に作ったおにぎりはいつもよりおいしい」「子どもと一緒に作ることができて楽しかった」と、好評であった。

④地域啓発リーフレットの作成「食でつくる笑顔と健康」

- ・作成者：地域食育推進委員会、山岡小学校食育推進委員会
- ・配付先：保育園、小学校、中学校の保護者
- ・内 容：食育推進の目的や意義、保育園や学校で行う食育、家庭で行う食育、豆知識等

(3) アンケート結果を基にした課題等の提示

効果的な食育を推進するためには、子どもや家庭の実態を把握することが大切であると考えた。そこで、定期的なアンケート項目を山岡小学校食育推進委員会で考え、地域食育推進委員会で検討

- ・実施期：6月、9月、1月
- ・対象：保育園の年少～年長全園児、小学校、中学校の全児童生徒
 ※保育園と小学校は保護者と共に回答、中学校は生徒自身が回答
- ・項目：就寝と起床の時間、朝食の有無や内容、排便の状況、家庭での食に関する話題等
- ・食育アンケートにおいて、課題となったことを「食育だより」に掲載し、保育園・小学校・中学校の保護者へ伝え、改善を促すようにした。

3 地域と連携した食に関する指導や体験活動の充実

(1) 地域の人材活用

学校では、地域の食材を取り入れた給食を出したり、授業でその食材を取り入れたりしてきた。また、地域の人材を活用することで、栽培活動や体験活動への意欲を高め、食に関する指導につなげることをねらった。

【1年生：給食での鮎料理についての話】

<体験学習の視点>

地域の方々に感謝の気持ちを抱かせたり、地域の食材を活用したりすることを重点とした。地元で捕れた鮎について、実物を見たり、鮎の食べ方を教えてもらったりしながら、地元の食材のおいしさや、鮎を育てている方々に感謝の気持ちをもつことにつながった。



【2年生：生活科「大根を育てよう」】

<体験学習の視点>

児童の願いや思いを大切にしながら楽しさが実感できる活動を重点とした。おいしい大根が育つようと、地域講師に間引きの仕方を教わったり世話の仕方を習ったりした。その後……



【2年生：生活科「おでんパーティーをしよう」】

<体験学習の視点>

児童の願いや思いを大切にしながら楽しさが実感できる活動を重点とした。大根栽培時お世話になった地域講師を招いて、収穫した大根でおでんパーティーを行った。栽培から収穫、そして調理まで、地域講師と一貫したつながりがもてた。



【3年生：総合的な学習の時間「大豆を育てよう」】

<体験学習の視点>

地域の方々に感謝の気持ちを抱かせたり、地域の食材を活用したりすることを重点とした。毎年、山岡食農リーダーである「まめなかな」のみなさんに、大豆がどんな食品に姿を変えているのかや大豆の育て方を指導してもらっている。地域の方々に支えられた活動であることや山岡で収穫された大豆を使うことで地域のよさを発見しながら学習をした。枝豆の収穫、さらには大豆料理づくりを計画した。

【4年生：総合的な学習の時間「寒天の秘密をさぐるう」】

<体験学習の視点>

地域の方々に感謝の気持ちを抱かせたり、地域の食材を活用したりすることを重点とした。山岡の特産物である寒天について、地域講師の話聞きながら、地元の寒天をいかした生活の仕方や思いなどを知る学習



【5年生：総合的な学習の時間「地産地消について考えよう」】

<体験学習の視点>

地域の方々に感謝の気持ちを抱かせたり、地域の食材を活用したりすることを重点とした。地域講師に大根畑の作り方や、種まき、間引きなどを教わった。

地産地消の意味を考えながら、食材を育てているの方々に感謝をし、地域食材の活用の仕方を自分たちで体験活動しながら学習した。



【5年生：総合的な学習の時間「地産地消について考えよう」】

＜体験学習の視点＞

地域の方々に感謝の気持ちを抱かせたり、地域の食材を活用したりすることを重点とした。地域講師から学んで作った大根を収穫し、家庭科の時間には、「みそ汁づくり」の材料にした。残った大根約100本は、町内の道の駅でも販売し、売り上げを東北大震災の義援金とした。この活動は、子ども達のアイデアによって始まったものである。食に関する学習が広まりを見せた例である。



(2) 地域講師を活用した栽培活動及び食に関する学習等の実施

山岡学校給食センターでは、「山岡野菜振興組合」をはじめとする地元生産者の地域食材や郷土料理などを取りれている。

『ふるさとの日』の実施：毎月19日

- ・内容：地元の食材を使ったメニュー、伝統食を取り入れた郷土料理
- ・方法：栄養教諭が作成し、全家庭に発行している「給食献立表」に、『ふるさとの日』の献立や食材、調理方法等を紹介した。また、校内に食材を展示し、生産者や生産の様子なども写真で掲示した。さらに、各学級でも担任が指導できるよう、栄養教諭が指導資料準備したり、給食時間に生産者を招いて話を聞く機会も設定したりした。



(2) 地域講師を活用した栽培活動等の実施

地域食育推進委員会では、「食農」への関心を高めることが食育推進には欠かせないことを確認した。保育園や学校で行っている栽培活動においては、地域の生産者等を積極的に講師に招いて取り組んできた。講師の選定時には、地域食育推進委員会のメンバーや栄養教諭が大きく関わってきた。

【具体的な実践】

- ・山岡地域における食の婦人団体「まめなかな会」や「椎茸づくりの名人」の地域講師から指導を受けて、実際に栽培等の活動を行った。この方々は、この山岡地域において、実際に栽培している方々であるため、栽培をする時に大切にしていることだけではなく、苦労したことやうれしかったことなど、生産者の気持ちを聞くことができ、普段自分たちが当たり前のように食べている野菜を作っている方の気持ちに触れることで、野菜に対する愛着を高めることができた。
- ・この山岡地域において、どうして細寒天作りが盛んなのかということを経験から学ぶことで、山岡地域の気候の特性を生かした栽培をすることの大切さを知ることができた。
- ・地域素材を活用した調理方をトマト(桃太郎)栽培農家の方から地元の野菜栽培について学び、トマトの料理の仕方の工夫について学ぶことができた。
- ・7月は、鮎の味噌田楽作りだったので、学習用に生きた鮎も届き、第1学年は魚屋の方から上手な鮎の食べ方を習うことで、魚の特徴を知ることができた。
- ・地元の地域おこしの「おばあちゃん市」の店の方や、地元生産者との交流を計画的に全学級で行ったりすることで、生産者の気持ちを理解し苦手な食品も食べられるようになった。

テーマ2の具体的計画

1 栄養教諭の役割の明確化

- ・給食時間を中心に、指導内容や方法を明らかにし、全校体制で指導に当たることが必要である。
- ・各学年の指導計画を見直し、授業におけるT2としての食に関する指導をすることが必要である。
- ・食育推進のための食育だより、リーフレットを作成し配付すると地域への効果大きい。

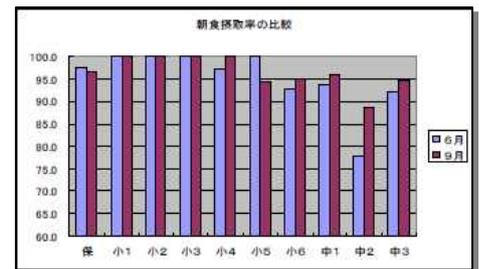
2 山岡地区食育検討委員会及び地域食育推進委員会の開催

- ・栄養教諭の位置付けを明確にするために定期的な開催をすることが必要である。
- ・保育園・小学校・中学校と連携して、食に関する課題を克服することが必要である。

3 地域の園児・児童・生徒の食生活状況把握

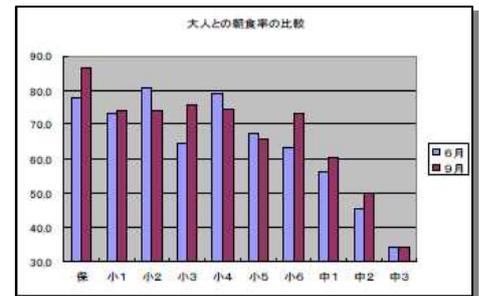
(1) 朝食摂取率

- ・保育園や小学校の朝食摂取率は高く、小学校の多くの学年で100%に達している。
- ・中学校においては、全ての学年で6月調査からの伸びがみられる。とくに、中2の伸びが顕著であり、食に関する指導の成果が出ている。



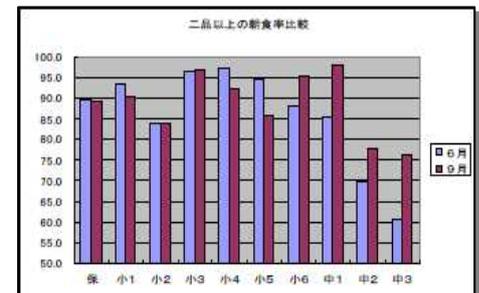
(2) 大人との朝食率

- ・課題の一つとして「子どもだけの朝食」をあげていた。保育園と中学校では、大人との朝食率が6月調査から大きく伸びている。
- ・小学校においては、昨年度の調査においては50%程度だったものが、今年度9月調査においては70%を超える結果になった。講演会や食育だより等による家庭への啓発が効果を上げている。



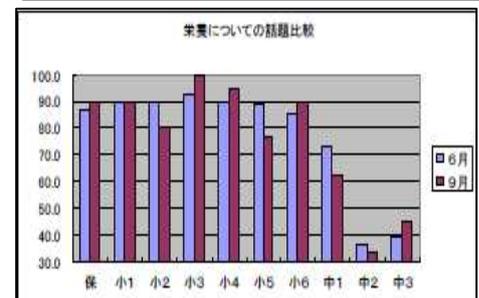
(3) 二品以上の朝食率

- ・「単品だけの朝食」についても課題の一つと考えてきた中学校においては、全ての学年で6月調査からの伸びがみられる。食に関する指導が効果的だった。
- ・小学校では大きく伸びた学年は少ないが、第6学年は、1学期の授業において「栄養バランスを考えた朝食」を扱い、学年通信等でも家庭に啓発してきたことなどから、6月調査からの伸びがあった。



(4) 栄養などについての家庭での話題

- ・保育園や小学校では、平均すると9割近い家庭において話題になっていることがわかる。今後も、家庭の理解や協力を得ながら食育を推進していくために、食育だよりやリーフレット配布等啓発活動に力を入れていくことは大切である。



(5) その他 (就寝・起床時間、排便等)

- ・就寝や起床の時間については、食生活や食習慣との関わりがあると考えてきた。しかし、小学校高学年から中学校にかけて、就寝時間が遅い児童生徒がいるという実態は改善されていない。起床時

間についても同じような結果である。基本的な生活習慣と食生活や食習慣をからめた指導を継続させる必要がある。

- ・排便については、昨年度調査で毎日排便をすることが習慣になっている児童が40%しかいないことが課題であったが、今年度調査で60%まで伸びた。

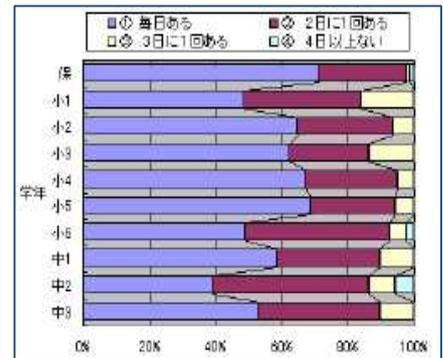
本事業における評価指標

＜アンケートによる実態（意識）の把握と取組後の変容

＜（6月→9月）＞

- ①「毎日の排便をする。」…59%→70%
- ②「ごはん(パン、麺等)と、味噌汁(スープ)とおかず等、品数3品以上の朝食をとる。」…47%→80%
- ③「食べ物の栄養について家庭で話題にする。」…41%→80%
- ④「朝ごはんを一人で食べる。」…14%→3%

- ・今後も発達段階における課題を明確にし、園や学校、各学年での指導内容を焦点化する必要がある。
- ・食生活アンケート等から見えてきた課題については、全体指導で取り組んでいくよりも、個別指導で取り組んでいった方がよいものがある。そうした課題をもつ個人(家庭)にどう迫っていくかを探る必要がある。
- ・「地域講師リスト」を作成し、教職員が異動になっても、学校や保育園と地域講師がつながりをもてるようにする必要がある。



本事業の成果

- 排便については、昨年度調査で毎日排便をすることが習慣になっている児童が40%しかいないことが課題であったが、今年度調査で60%まで伸びた。
- 食生活アンケート等による実態把握をもとに、学校や保育園が意図的な食に関する指導を行ってきたことで、子どもたちの意識や実生活に変化がみられた。
- 幼児期からの指導の重要性を考え、保育園～中学校までの年間計画作成を試みたことは、今後の指導につながっていく。
- 給食時間の直接指導、教科等におけるT2としての指導等、栄養教諭の役割を明確にしたことで、栄養教諭も他の職員も動きやすくなった。
- 食育だよりやリーフレットの配付が、食に関する問題や課題意識を保護者がもつことにつながった。
- PTA母親委員会を巻き込んでの食育講演会や給食試食会を実施したことで、保護者の食育に関する意識が高まったことと、保護者同士が意識や知識を共有することになった。
- 毎日食べる給食に、地域食材や郷土料理を取り入れるのは、食や地域に興味をもたせる上で効果が大きい。毎月の『ふるさとの日』を継続させたい。
- 地域講師選定時に、山岡地域食育検討委員や栄養教諭が関わったことで講師依頼等が容易にできた。
- 地域講師を活用することは、栽培活動や体験活動への意欲を喚起することにつながった。同時に、「開かれた学校づくり」にもつながった。